

# 令和元年度第1回県・市町村行政懇談会 議事録

日時 令和元年8月28日(水)

午後1時から3時まで

場所 白兔会館「飛翔の間」

## 1 開会

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

失礼いたします。定刻になりました。これより、令和元年度第1回県・市町村行政懇談会を開催させていただきます。まず、開会に当たりまして平井鳥取県知事が御挨拶申し上げます。

## 2 開会あいさつ

(平井知事)

皆様、こんにちは。本日はこうして市町村長の皆様、お集まりをいただきまして本当にありがとうございました。また、日頃は大変御発展いただき、様々な地域振興の課題、あるいは福祉や教育、辣腕をふるっていただきまして本当にありがとうございます。これも深澤市長会長、あるいは宮脇町村会長を初め、市町村長の皆様のお働きのお陰でございまして、ぜひこうしたすばらしいハーモニーをつくってまいりたいと思います。令和という新しい時代、これがビューティフルハーモニーというふうに訳されているわけですが、月が明らかであって、そして風が和んでいる、そんな風情が令和でございます。ただ、今日も九州の方では、大変な災害になっているところがございます。非常に秋の空、その中でも災害が起り続ける、そんな世の中になっているんじゃないかなというふうに思います。

「すさまじき 雲の走りや 秋の空」と正岡子規も詠んでいました。そんな災害のこと、これを乗り越えていく、安全・安心をつくるのがその最前線にいる首長である私たちであろうかと思えます。そういう意味でも力を合わせて様々なことに挑戦をしてみたいと思います。

今日は、この令和という時代を見渡してみても、市長会、町村会と調整をさせていただきましたが、当面する様々な課題の中でも、1つは子どもたちの安全・安心づくり、これは大津で大変な事故がありました。あれは人の手で防げる部分の中にはあると思います。例えば、あの現場、私もよく知っている所なんですけども、ちょうど交差点でガードレールがない所がありますが、それに措置ができていけばまた違った展開になったかもしれない。今、市町村の皆様と一緒に緊急の点検も進めているところでありますが、県の方でも、このたび、6,200万円の費用を計上しようとして9月議会の議論を控えているところがございます。そういうことで代表されますような安全・安心づくりというのをしっかりと皆様と進めていければと思います。

もうすぐ10月になりますと消費税が引き上げられる。これを財源として社会保障の充実のシンボルとして保育料、あるいは幼稚園、そうした幼児教育の無償化を進めようと、こんなように国も動いてきました。3歳児から5歳児でございまして、本県は既に第3子以降の無償化や中山間地の無償化などを進めてまいりました。いわば、その意味では、財源がまだ必要になることもあれば、むしろ国の方から措置されることも出てくることになるわけでもあります。多分、大事なのは鳥取県に今、移住して来られるような方々が何を評価しているか、一番よく耳にするアンケートで出てくるのが子育て環境がいいということでもあります。実際、市町村の中でも、子育て政策を一生懸命されておられますと、それに応えるかのように、そういう移住などにも響いてくる。それから、いろんな町の声でも体感できると思います。そんな意味で全国画一的な、そういう子育て制度にさらにプラスアルファして考えるとしたら、全国の人もびっくりするような、こうい

うことをまた鳥取はやるんだなというふうに1歩前に入るような、そんな子育ての施策というのを考えていく必要があるのかなというふうに思いまして、今、市町村の代表の方にも入っていただき、研究会を始めたところでございます。そんなようなことなど、子ども未来世代、どういうふうに育てていくのか、皆さんと意見の交換をさせていただければと思います。

また、あわせまして、この骨格をつくっていく、交通機関の問題、最近、にわかには脚光を浴びてきたのが山陰新幹線のことでございました。また、中国横断新幹線、これもそうでございます。私も関西広域連合、明日でございますけれども、関西広域連合では平井もいろいろとオルグをしているものですから、あちらの要望では、山陰新幹線というのが常に挙がってくるようになってきました。ただ、結局、最後は自分たちでいろいろと声も挙げていかなければならない、いうこともあろうかと思えます。そうした新幹線を含めた高速鉄道のあり方、あるいは道路、これもそうあります。大分、高速道路はつながってきまして、私たちのふるさとの姿も元気になってきたと思えます。また、安全、安心も図られるようになってきたと思えます。でも、まだ開通していない区間があったり、4車線化ということもあります。先般も国の方にお伺いをしましたが、米子自動車道の4車線化の区間をさらに伸ばしていくことであるとか、あるいは境港、米子間という懸案であるとか、また、鳥取市の福部とそれから大動脈を結ぶ南北道路であるとか、大きな、大きなテーマはまだ残っております。山陰道もつながったとはいえ、北条道路の所が残っているとございまして、そういうような残されたインフラの課題、これも未来へのプレゼントとして、令和の初めに私たちも話し合っておくべきことではないかと思えます。ぜひとも、そうした新しい令和の時代を拓くそれにふさわしいような市町村長の皆様の御意見、御関心をお寄せいただければと思います。

それぞれの市、町、村のますますの御隆盛をお祈り申し上げまして、私からのメッセージとさせていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

(司会) 続きまして、深澤市長会長様、御挨拶をお願いいたします。

#### (深澤鳥取市長)

皆さん、こんにちは。県の市長会の会長をさせていただいております鳥取市長の深澤でございます。日頃より、平井知事初め、鳥取県の皆様におかれましては、いろんな場面で大変お世話になつとところでございます。改めまして、心より感謝申し上げます次第でございます。また、今日はこのような懇談会ということで、私たちにこういった機会を与えていただきましたことを厚く御礼を申し上げます。本日の議題、子どもたちの安全・安心の確保、子育て支援、人材育成、また、新たな時代の公共交通の確保等々、いずれも私たちがこれからしっかりと取り組んでいかなければならない重要な課題であります。今日のこの懇談会がまた新しい鳥取県を切り拓いていく、そのような力となっていく機会となりますことを心より祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いを申し上げます。

### 3 議題

#### (1) 新時代における子育て支援・人財育成(教育)のあり方について

##### (加藤令和新時代創造本部長)

はい、ありがとうございました。それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと思います。まず、議題の内容を簡単に御説明を申し上げました後、各市町村長の皆様から順に御意見をお伺いできたらと思っております。限られた時間の中でございます、進行につきまして御配慮いただきますようよろしくお願いいたします。それでは着座にて御説明申し上げます。

それでは、意見交換の資料をお開きいただけたらと思います。

**資料1-1**でございます。子どもの安全対策への取組推進についてでございます。先ほど、知事の挨拶にもございました。大津市で発生いたしました死亡事故、また、川崎市で発生しました事件などを踏まえまして、2ページ目につけておりますが、2ページの方に。各施設が園外活動ルートの特検を実施し、1,038箇所の特検性のある箇所を掲げられたところでございます。鳥取市など市町村でも対策を講じられておられるところでございますが、県でも緊急性の高い箇所につきましては、9月補正予算で対応していくこととしております。改めて9月中に合同特検を行いたいと考えているところでございますが、子どもたちの安全確保、見守りの強化など、地域ボランティア、また、市町村、県警等と緊密に連携をいたしまして、早急に安全確保対策に取り組んでいきたいと考えておりますので、御協力をぜひお願いできたらというふうに考えております。

続きまして、**資料1-4**、8ページをお願いできたらと思います。全国の一歩先を行く新たな子育て支援策についてでございます。本県では、平成22年の子育て王国建国以来、全国に先駆け様々な子育て支援に取り組んでいるところでございます。現在、子育て王国ととりにふさわしい新時代の子育てのあり方について検討するために、今年1月に県民アンケートを実施し、検討が必要な項目を抽出するとともに、有識者によりますあり方検討会を設置しまして、様々な御意見をいただいているようなところでございます。今後、これらの情報を市町村の皆様と共有しながら、新しい子育て支援につきまして連携して取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

続きまして、戻ります。3ページ、資料1-2、1-3につきまして、教育長より御説明を申し上げます。

#### (山本教育長)

令和新時代を担っていく人材育成につきまして、教育行政の観点から2つの項目を議題とさせていただきます。1点目が**資料1-2**グローバル化に対応した英語教育の推進ということで、今、世の中非常にグローバル化が加速度的に進展しておるところでございますが、鳥取におきましても、例えば企業の海外展開でありますとか、外国人労働者の雇用、そしてまた外国人観光客の増加など、この鳥取にいながらにして外国の方と接する機会、あるいは英語等でのコミュニケーションが必要となっている場面が増加しているわけでございます。今、国を挙げて、英語を初めとする外国語教育に力を入れて取り組んでいるところでございますが、従来、読む、書く、聞くに加えて、話すといった力をバランスよくつけ、コミュニケーション、英語によるコミュニケーション力をつけていこうということで、いよいよ来年度からは小学校でもこの英語の教育が教科として取り扱われるということになっております。本県でも、かねて英語教育に取り組んできているところでございますが、そこにも記載しておりますように、国のこの状況調査の結果でありますとか、データはお付けしておりませんが、このたび、全国の学力学習状況調査で、初めて英語が試験で行われましたが、全国平均よりも2ポイントほど低いといった正答率であったという結果を見ると、まだまだ子どもたちに十分な力がつけられていないというふうに思っております。分析してみますと、単語だとか、文法を活用してしっかりときちんと正確に書くといったところ、鳥取県の子どもたち、まだまだ弱いといったところでございます。引き続き、市町村の教育委員会とも連携をして取組を行っていききたいと考えておりますが、今、県教委の方では、英語の専科教員、これは国の定数を利用して配置をしたり、あるいは教員の授業力の向上といった点を中心に取り組んでいるところでございますが、本年度から新たに中学校2年生で、この裏側になります。真ん中あたり、英検のI B Aというこの民間試験を活用して、子どもたちの英語の

力でありますとか、あるいは教員の指導の検証を行って事業改善に生かしていこうといった取組を新たに始めることといたしております。市町村におかれましても、ぜひ生きた英語に触れる、これが大事であろうというふうに思っております、子どもたちの学習の動機づけでありますとか、英語を実践的に使う機会の創出にお力添えをいただきたいというふうに思っております。具体的にはALT、それぞれの市町村で雇用していただいておりますALT、あるいは地域人材、地域の英語に堪能な方を活用した支援員制度など、これをぜひ小学校、できるだけ年齢の低いところでしっかり活用していただきたいというふうに思っておりますし、また、県の方でもイングリッシュキャンプといった取組をしておりますし、大学の方でも、鳥取環境大学では英語村といったこと、あるいは鳥取短大では、出前英語村といったような取組もされております。そうしたこともぜひ活用をしながら取り組んでいただければというふうに思いますし、海外学校との交流でありますとか、海外への派遣研修などにも積極的に取り組んでいただくとありがたいかなというふうに考えております。

2点目が資料1-3、ふるさとキャリア教育の推進といった点でございます。かねてこの行政懇談会の中でも地方創生、あるいは若者の定着等に向けて、いわゆるふるさと教育を充実すべきといった御意見も多くございまして、全県を挙げて取り組むこととしていただいております。小中学校段階では、それぞれ市町村におかれて、ふるさとの歴史・文化でありますとか、ふるさとの偉人といったことを学ぶ副読本を独自につくられて、それぞれ授業等で扱われるなど、取組が進められてきておるところでございます。感謝を申し上げたいと思います。県の教育委員会としましてはこうした取組を含めて、ふるさと教育を系統的に、また、知識だけじゃなくってできるだけ体験的に学ぶということが必要だと考えてございまして、この後ろに別添という形でつけさせていただいておりますが、ふるさとキャリア教育を体系的に整理するとともに、このたびキャリアパスポートということを導入しようじゃないかと、ふるさと教育について学んだことを自分でこう綴って行って、それを記録として残し積み上げていくといったことをやろうというふうに考えております。そういったこととございまして、また新たにこれまでの市町村で行われている取組などを少し見てみますと、産業だとか、仕事といったところに着目した取組がまだまだこれから取り組む必要があるのかなというふうに思っております、そうしたところに着目した副読本を県の方で準備をしようということとありますとか、あるいは地域で活躍、今現在、偉人という形で、過去の人ではなくて今現在、地域で活躍している大人の人と中学生あたりがじっくりと仕事であるとか、生き方について語り合うようなそんな場面を設けていこうといったような取組も始めているところとございます。さらに、高等学校の方では、そこに、裏の方に書いておりますようなさまざま取組を行っておりますが、特に普通科進学校において地元企業のことを知らないまま県外に進学すると、そのまま県外で就職してしまう生徒も多いことが指摘されてございまして、そうしたこと、インターンシップといったような形とありますとか、地域に出かけて行ってその課題を拾い上げて学んでいく、そうした取組にも力を入れて取り組んでいこうというふうに思っております。

さらに、卒業後のことも、今、知事部局の方と連携をして取り組んでおるところとございますが、進学した、県外等に進学した生徒に就職情報等を届ける鳥取ふるさと登録制度というものを、これをアプリケーション、スマートホンのアプリケーションというものをつくって届けていこうと、そうした取組について例えば高校の同窓会とありますとか、PTA組織なども連携をしてこの登録を在学中にしっかりと進めながら、将来の情報提供につなげていく。そして、またUターンにつなげていく、そうした取組も始めているところとございます。また、この県外に出るということの課題が県内の中でも実は高校のところで起きているということが最近あります。中山間地域の町村から市部の高校に進学をして、そのまま県外に出たりして地域とのつながりが全くなく

なるというようなこともございまして、書かせていただいておりますが、今、南部町の方で高校生のサークルをつくったり、あるいは青年議会といったようなところで高校生を地域に巻き込んでいくような動きでありますとか、また、日野郡3町の方で高校生を学校の枠を超えて、どの学校に進学してもふるさとのことを高校時代に学べるような、そうした事業を展開されるなど、新たな取組も始まっているところでございます。引き続き市町村、あるいは学校現場と考え方等を共有しながら、鳥取県らしいふるさと教育を進めていきたいと考えております。

## (2) 新たな交通体系の構築に向けて

(加藤令和新時代創造本部長)

続きまして、議題の2のところでございます。新たな交通体系の構築についてでございます。**資料2-1**、10ページをお開きいただけたらと思います。公共交通の利用者の減少でございますとか、ドライバー不足などから持続可能な地域交通体系の再構築が喫緊の課題となっているところでございます。市町村におかれましても、現在、17の市町村がタクシーの助成制度を実施されておりますほか、例えば、鳥取市の大和地区では地元住民の運転する乗合タクシーを運行開始されましたり、八頭町ではバス自動運転の実証実験、11ページの方に記載しております。大山町のカーシェアリングの試行などの取組、様々な取組が進められているところでございます。県でもバス中心でございました公共交通の支援制度からバス、タクシー、共助交通を組み合わせた新たな交通体系の構築を支援していきたいというふうに考えているところでございます。今後、地域の実状に合わせた地域交通体系の構築に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。本日、様々な御意見など、アイデアなどいただければというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

続きまして、**資料2-2**でございます。高速道路の整備の促進についてでございます。16ページに図で示させていただいております。5月に鳥取西道路が全線開通いたしました。県内高速道路供用率が80.2%に向上しておりますが、引き続き付加本線の整備促進でございますとか、北条道路等事業中区間の整備促進、また、米子、境港間、南北道路などの未着手区間の早期事業化など定時性、安全性確保に向けた協力をお願いしたいというふうに考えているところでございますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、**資料2-3**、17ページでございます。現在、高速道路、国内の高速道路の整備計画路線は、全区間おおむね整備完了の見通しが立ったところでございます。また、国などにおきまして今後の効率的な整備手法の研究等も進められているところでございます。今後、山陰新幹線、中国横断新幹線の整備計画路線への格上げと合わせ、地方負担のあり方、また、並行在来線の経営区分分離方針の見直し等を目指し、県としても地方6団体での国への要望活動などを始めるところでございますが、市町村とともに運動を展開していきたいというふうに考えております。説明は簡単でございますが以上でございます。

## 4 意見交換

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

これより各市町村長の皆様から議題1、2に関しまして順に御発言をぜひお願いできたらというふうに考えておるところでございます。本日は、東部の方からまず鳥取市長様お願いできますか。すいません。突然でございます。

(深澤鳥取市長)

はい。あまり発言は予定してなかったですが、まず子育て支援について、知事の方から冒頭、

一歩前に入るような子育て施策をとということでおっしゃっていただきました。御案内のように、このたび国の方も幼児教育の無償化ということで打ち出したわけではありますが3歳から5歳までということでもあります。3歳未満についても、県内ではいろんな負担軽減策に取り組んできているところでもあります。国の方のこういった施策が実施されることに当たって、これからも鳥取県は一歩前に入るような子育て施策を講じているんだということであってほしいなと思いますので、また県の方におかれましては、そのような取組をこれからも進めていただきたいと思います。

それから公共交通の維持確保について、鳥取市の方の大和地区の取組も御紹介をいただきました。本当にありがとうございます。これも路線バス廃止を契機として地元の方が取り組んでいこうということで、非常にスピード感持ってこのたび取り組んでいただきました。ただ、実際に事業を進めていく中でいろんな問題点や課題もあるという前提で、それはこの事業を進めながら一緒に考えていこうということにしているところでもあります。以前にもNPO法人等で、こういった公共交通空白地の有償運送に取り組んでいただいている例はありますが、やはり純粋なボランティア精神によるというのはなかなか難しいということもありますので、そこを行政の方で少し後押しをしていくということで実現可能な部分はたくさんあると思っておりますので、この大和地区の取組がまた1つの先進例としてうまくいくということを今、願っているところでもあります。

また、山陰新幹線についても知事の方でまたオルグをやっていただいているということで大変ありがたく思っておりますが、整備計画路線について具体的に今、事業が進めていかれているところでありまして、次は基本計画路線、山陰新幹線につきましてもこれは昭和48年だったと思いますが、それ以降、全く動いてないという状況がありますが、今、まさにその機運も醸成をしていくそのような時期にあると思っております。並行在来線の問題、それから地域の負担のありよう、いろんな課題はありますけれども、そういったことをこの鳥取県から力強く打ち出していくという、今、まさにそのような時期にあると思っておりますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、岩美町長お願いいたします。

#### (西垣岩美町長)

失礼します。私の方から2点ほどちょっとお話をさせていただけたらというふうに思っております。まず1つは、子育て支援策ということであります。知事の御挨拶にもありましたように、子育て王国とっとりということで、子育て支援、こういった部分については非常に力を入れていただいているというのはありがたいなというように思っておりますし、お話の中にありましたように移住者、これは何をもちて来られるのかっていったら、やっぱり子育て施策が充実している。これも1つの選択肢の中でかなり移住者の方がお見えになっているのも実状でございます。我が岩美町の方にもやっぱりそういった声が聞こえてきますので、移住者の中で聞こえてきますので、そういった部分については、引き続きいろいろと市町村の意見も聞いていただきながらやっていただけたらというふうに思っております。

ただ、1点だけちょっとここでお話をさせていただきたいと思うんですけども、鳥取県自体が第3子の保育園の無償化ということを出して全国に先駆けたんだろうと思います。これを国の方が追随をする形で幼児教育等の無償化、保育の無償化ということを出してきたわけではありますが、若干、既存の県の制度と比べて後退する部分があるっていう言い方はおかしいんですけども、国の制度に合わせた場合に、若干ちょっと一部の方で負担増になる部分が出てくるのが予想をされております。こういったあたり何とか一緒になって負担増にならないように制度自体が検討いただけたらなというふうに思うところがございます。また、あまり国の方

が無償化、無償化言うもんですから、本当に住民の皆さんというか、子育て世代の皆さんは「ただ」になるんだなっていう認識でおられるようなところがありまして、非常に町村としてもそういった部分はやりづらい部分がございます。そういったあたりの手当という部分もしていきたいというように思っておりますので、その辺も一緒になって制度構築をお願いができればなというように思っております。

それからもう1点は、高速道路網整備の促進についてということであります。平井知事が就任された当時の高速道路網、県内の道路網というのは多分4割を切って3割強ぐらいだったと思います。それがおかげさまで8割ということになっているわけでありまして、我が岩美町も駒馳山バイパスを初め、岩美道路ということで浦富インターまでつけていただきました。本当に命の道路ということで有難く思っているところでありまして、今現在、浦富インター近辺では高速道路が通ったことによって宅地化がかなり進んで、以前に比べて町の様子が随分変わってきております。引き続き山陰近畿自動車道、この新岩美道路について御尽力がいただければなというふうに思うところでございます。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、若桜町長様お願いいたします。

(矢部若桜町長)

はい。私の方からも2点お話させていただきたいというふうに思います。まず1点目でございますが、グローバル化した教育の推進でございます。その中に生徒の英語力及び教師の指導力を向上する取組というのがございまして、ICT環境の整備・推進という部分がございます。それで、もう既にどこの学校の方でもタブレットであったり、電子黒板などを利用して教育ソフトを入れて教育の方、取り組んでいるところでございますが、なかなか実態として学力向上にはつながってきていないという点もございます。それで、来年度から今現在、5Gの環境整備がどんどん進んでおりまして、この英語教育だけでなく、さまざまな教育という分野で例えば若桜学園みたいに少ない子どもたちが少ない教室で授業を受けるのではなくて、ほかの学校と一緒に授業を受けるということが可能になってまいります。また、この5Gの活用によりまして英語教育も家庭の中でその外国人の方とマンツーマンで英語を学ぶということも十分、可能になってくるというふうに思っております。ぜひ、そのものに取り組んでまいりたいと思っております。やはりその指導について学校の先生だけが担っていくのにはやはりかなりちょっと荷が重たいということもございますので、そういうITの専門員という方の活用というものをご希望というふうなことで、若桜町の場合は、この4月から導入をしてやっております。ぜひ、そういうIT専門員の方の派遣ができるような制度であったり、この支援をしていただけるような制度というものができましたらお願いさせていただきたいというのが1点でございます。

それで、もう1点につきましては、公共交通の関係でございまして、やはり今日の課題にもございましたように、バス事業者のドライバーの不足であったり、バスの乗車率の低下というものは本当に顕著にございまして、もう既に若桜町の方でも廃止をしたいという事業者の方の御意見もいただいているような状況でございます。そういう中で、いかに確保していこう、いかに公共交通を守ろうという、先ほども鳥取市長の方からございましたけど、いい見本もございます。やはりそういうのを学びながら、若桜町の場合ではやはりコミュニティタクシーの導入というのを早急にやっていきたいというふうに思っております。やはり若桜の場合、高齢者の方が多い、また、中山間地で山が多く、歩くのが大変しんどいということで、ドアtoドアでないやはりなかなか公共交通としての役割を果たしていかない。買い物をしたけども、その買ったものを家

まで持って帰れないというようなことも聞いております。ぜひ、そういう形のコミュニティタクシーの導入というものを早期にやっていきたいというふうに思っておりますので、また御支援の方お願いしたいと思っておりますし、もう1点、実は自家用車は、鳥取県の場合普及率すごく高い、皆さんが持っておられます。ところが自家用車というのはなかなか稼働率を考えると、例えば通勤で使われる場合には朝乗って会社に行きます。それで、仕事をします。それで、帰りにまた乗って帰ります。ということは会社におられる間というのは、この自家用車というのは全く稼働されていない、使われていないというような状況でございます。その車を活用してこの若桜の場合はそういうタクシー等、今ございませんので、そのレンタカー化ができないかというものを、今シェアカーというものが町の方で流行っておりますが、それをレンタカーにしているというのは、今、全く事例がないということ国交省の方と交通局に聞きました。そういう制度もまだできていないということでございますが、そういう活用もあってもいいんじゃないかなというふうに、今、思っております、ぜひこういうのも研究してみたいというふうに思いますので、また御指導のほどよろしくお願いいたします。

(司会) ありがとうございます。続きまして、八頭町長様お願いいたします。

#### (吉田八頭町長)

はい。私の方からも2点ほどお話をさせていただきます。最初に子育て関係でございますが、まず最初に、鳥取県のさまざまな子育て支援策に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。それこそ八頭町に限らず多くの自治体で様々な保育ニーズに対応するために延長保育でありますとか、一時保育、そして病児・病後児保育といった特別保育サービスを実施しているというのが今の姿であります。一方で、これらのサービスの拡充には欠かせないのはやはり保育士さんの確保であると思っております。それこそ多くの自治体で慢性的に不足しているのが現状ではないかと考えております。そして保育士の不足というのは新たな転入家庭の入所希望でありますとか、それから、一時保育というような受け入れにも影響しているというのが今の姿でありますし、なかなかその年度途中での入所希望に込えられていないというような姿も多々見受けられるということであります。それで、また、現在のその保育士雇用というのは保育士資格所持の求職者を近隣の自治体間でそれこそ取り合うといえますか、そういったような構図になっているというのも、今の現状だろうと思っております。それで、この保育士不足の根本的な解決というのが、なかなかないわけではあります。それこそ県と市町村が連携をいたしまして、新たなその保育士の育成と潜在する保育士を発掘する継続的な取組を進めていかなければならないのではないかと考えているところであります。例えば、東部、中部、西部の圏域ということがあるわけではあります。潜在者名簿の作成によります求人案内通知の発送、ダイレクトメールというんですかね、そういったものの取組等をして、少しでも現状を改善できるような方策を模索することが必要ではないかなと今考えているところであります。

もう1点は育児給付の充実の取組というのも非常に大事ではないかと考えております。現在の育児休業制度、それこそ受給資格に応じて賃金の今50%ですかね、というように支給の制度ということではあります。ただ、現状の給付ではその経済面がやはり厳しいと、苦しいというようなことから厚労省の調査結果でも大体1年ぐらいですかね、1年未満かもわかりませんが、程度では現場に復帰されるというのが今の姿であります。親と子の絆をしっかりと育む重要な期間というのがこの期間でありますので、この時期に経済的な理由からその職場復帰をせざるを得ない現制度の充実をもっと図るべきではないかなと今考えておまして、それこそ諸外国の例というのがございますので、ぜひ思い切ったその改正でありますとか、給付期間の延長、引き上げ等が望まれ



ているのではないかなと思っております、その親の希望に応じて家庭内保育の期間が長期化できることになると、最初、保育士の話をしていただきましたが、そういった保育士の不足の問題にも波及効果が見込まれるのではないかなと思っております。

今回の資料にはその通学助成のことがございました。県の御支援をいただきながら取組をさせていただきたいと考えておりますし、保育所の給食の副食費の支援につきましても検討いただけたら幸いであると思っております。子育て王国鳥取県の手法的な強いリーダーシップのもとに各関係機関と連携を図りながら、さらなる取組を推進していただけたらと考えるものであります。

もう1点、新たな交通体系の関係であります。八頭町では先ほど紹介をいただきましたけど、自動運転バスの実証実験を3月の下旬から4月の中旬にかけて実施したところであります。本格運用に向けましてはまだまだそのシステム開発と道路交通法などの法整備に時間がかかるのではないかと考えているところであります。今後検討していただきたいというものがございます。Uber（ウーバー）のシステムでございます。これは県内で取り組むことができないかと考えているところであります、道路運送法の公共交通機関として住民が十分な輸送手段を確保できない場合、NPOなど会員に対して実費の範囲でも有償輸送サービスを提供できるという制度を活用し、公共交通空白地有償運送として既に国内でも取り組んでいる自治体もあるということでもあります。車のファミリーサポート版と考えていただければと思いますが、ドライバーも御自分の都合がいい時間だけ対応すれば済むというようなことがございまして、負担が少ないと聞いておりますし、それから、利用者の方につきましてもタクシーよりも安いというようなこともございます。このようなシステムが鳥取県全体の公共交通空白地で導入することができたら、タクシー会社のドライバー不足でありますとか、それから地域コミュニティというのが今大きな問題であります、そういった共助の活動につながっていくものと考えますので、鳥取県での取組の支援を応援していただけたらと考えているところであります。以上であります。

（司会）ありがとうございました。続きまして、智頭町長様お願いいたします。

#### （寺谷智頭町長）

はい。私は子育ての中で、今この意見交換のところに議題1 新時代における、これ恐らく令和という意味であろうかと思いますが、私、今、何かすごい教育の混乱時期に入っているんじゃないかなってことを非常に危惧しております。要するに今の世の中というのはもうものすごいスピードで進化しています。もうどんどんどん本当にもう、まるで宇宙船ヤマトに乗って宇宙に行こうぜ、それに乗り遅れるとそんな町はもう消滅するぞ、ぐらいの勢いで新しいことがどんどんどんこう増えてきております。それはそれでいいことだと思うんですが、今の子どもにとって、もう上ばっかり見て、また先生もそういう宇宙船ヤマトに乗って宇宙に行くようなそういう何か教育。ところが、それもいいんですが、そういう進化すればするほど残念ながら過去、日本のよさとか、あるいはその町のずっと続けてきたい風習とか、その地域の良さというのが何か全部削り取られていっているんじゃないかな、だから、先生にとってもですよ、私もこないだ中学の先生にお願いしたんですが、先生、大変だけれども、その宇宙に行くのもいいけれども、子どもたちに智頭の良さっていうのも両方勉強させてほしいと、子どもも大変だと思う、こっちも、上も勉強しなきゃだめ、後ろも勉強しなきゃだめ、大変かもしれないけども、ぜひそういう教育をお願いしたいですねっていうようなことをお願いしましたけども、本当に先生も大変だと思います、教師自身も。これ、鳥取県じゃないですけども、実際あった話で、今年4月に入学した子ども、小学校に、それで、6月に何県かちょっと忘れちゃったけども、お母さんが、保護者が学校に怒鳴り込んできた。どうして家の子に箸の持ち方を学校は教えないんかって、よくそんなこと

が言えるなと思いますけども。それで、結局、新しい新任の先生はなかなか保護者に向かって口出しが出せないようなまた時代になっている、そんな口出しすればもうまたよってたかって意見されるといふ。だから、何か混乱したこの時期、時代に入ったというような中で、私は今、百人委員会というのをやっていますけども、智頭町は百人委員会ということで、大人の百人委員会、それから鳥取大学の学長にお願いして大学生の百人委員会、智頭農林高等学校、そして智頭中学校、この全部世代が違う人たちに、智頭町これから俺たちはどうしたらいいんだ、あるいは私たちの夢はこういう夢があるんだっていうようなことを全部グループで話し合ってもらって、それを自分たちで、じゃあ、これをやるためにはこれぐらいの予算がかかるだろうなということも提出してもらって、それをよしきた、わかった、じゃあ、予算つけましょうと。ただし、予算をつけた後、あんたたちは全部それを消化しなさい、汗をかいて自分でやってくださいねという約束事で行っているんですが、智頭中学校も将来子どもたちが中学を卒業して高校に行こうが、あるいは東京に行こうが、ニューヨークに行こうが、僕たちが考えた、私たちが考えたことがいまだに智頭町に足跡として残っている。やっぱりそういう何か教育というか、そういうものを目指して一方ではやっている。それで、ともすれば、金銭的に知事に、知事お願いしますよ、補助お願いしますよっていうことになりがちなんですけども、むしろそれもさておいて、やっぱり精神的に、本当に宇宙に行くのもよろしい、しかし、その後ろも見て本当に自分たちの町が誇れるような子どもたち、そういうものをつくりつくりおかないと何かちょっと心配だなと、そんなようなことを思っております。

それから、智頭町は森のようちえん、それでかなり全国から申し込みがございます。しかし、先生も少ないですし、どんどん受け入れるわけにはいきません。しかし見ていると、青翔開智、これ40人定員で森のようちえんにいた卒業生が4人、今年入っています。今、智頭町で言われているのは次に続く子どもたちも挑戦しようぜと、この学校が良い悪いは抜きにして、結構やっぱり自然体で育てる子はやるときはやるんだなっていう何かそんなような感じがしてなりません。それで、都会からも、そういう森のようちえんにぜひ入れたいという申し込みが増えてきていると、その中で、私はサドベリーというのも土日だけは応援をしていますけども、これ、ぜひ、やっぱり学問の生き様の中に自分たちで選べるっていう、そういうゾーンもつくっていただきたいなど。何も文科省が言われるカリキュラムに沿って、もうサッカーボールみたいないい子いい子、100点満点のいい子をつくらうではなくて、この子はこういうふうに育てたいという親子さん、僕はこういうことをやりたいというそういう子をどんどん伸ばすような、何かそういうことで、できれば私、知事にお願いしたいのは世田谷にはサドベリーが堂々と、堂々といたらおかしいですけど、やっています。それで、特区でも取ってやっぱり自分でも得られる、それから自分の能力をどんどん伸ばせるような何かそういうのが一部日本にあってもいいんじゃないかなというふうな気がしますので、ぜひ、何かサドベリーのものを山を通じて何かやれば嬉しいな、こんなような夢を持っております。以上であります。

(司会) ありがとうございます。続きまして、中部の方で、倉吉市長様お願いいたします。

#### (石田倉吉市長)

はい。私の方からは公共交通について1点お話をさせていただきたいと思っております。今、中部の方では協議会をつくって県にも入っていただいて、そのあり方をいろいろ検討させていただいています。問題意識は資料に書いてあるとおりでありますけれども、倉吉でもデマンドバスとか、デマンドタクシーとか、過疎地有償運送とかいろいろ組み合わせでやっているんですけど、なかなかうまくいっていないというのが現状じゃないかなというふうに思っています。

今の公共バスの補助金というのは赤字補填という趣旨なものですから、どうしても乗る人がいなくなればなるほど補助金が増えるという非常にいびつな形になっております。そういう意味でも、交通弱者対策にもあまりなっていないんじゃないかなという感じがしています。それは抜本的にやっぱり考えていく必要があるのかなというふうに思います。その一方で、例えば医療機関ですとか、福祉施設などは自助努力でバスを運行されて、患者さんや施設利用者の利便性を図っておられる。そういうものをうまく活用したような交通の組み合わせというものも考えていく必要があるのかなと思ったりもしています。具体的なアイデアが今あるわけではありませんけれども、ぜひ県にも、主体的に関わっていただいて公共交通、これから重要な課題になってきますのでよろしくお願い申し上げたいなというふうに思います。併せて、その一方で、高齢者の交通事故防止という意味ではやはり免許証の返納というものも進めていく必要があるのかなというふうに思っております。タクシー券の助成とか、バスの定期代の助成とかさせていただいているんですけど、やはりその免許返納のインセンティブが働くような支援制度について、県の方も一緒に関わっていただくとありがたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。私からは以上です。

(司会) ありがとうございます。続きまして、三朝町長様お願いいたします。

#### (松浦三朝町長)

2点についてお話をさせていただきたいと思います。初めに英語教育の推進についてでございますけど、私の町では今年度から保育園、それから小学校・中学校までの一貫した英語教育の推進のプログラム、三朝イングリッシュシャワープログラムというふうに名付けておりますけども、それをスタートさせまして幼児から中学生までの切目のない一貫した英語の活動・指導を行って英語力の向上を目指すということに取り組んできております。これは去年から町の教育委員会、学校、そしてALT、そして町、さらに県の事業でございました外国語活動支援配置事業で配置をされた支援員さん、今年は残念ながらおられませんけど、そういう方で準備を進めてきて、ようやく今年のスタートが切れたということでございます。このプログラムを実施していくという中で、学校側と進めて行かなくてはなりません。それが非常に重要になってきておまして、その中で英語教育の専門知識や理解のある方のいわゆる配置が滞るということが、それが切れてしまう可能性もございますので、そういうことがないようにさせていただきたいというふうに思いますし、そういう面では人事の際には、町のそういった教育のプログラム等、その計画的な取組に配慮をしていただきたいというふうに思いますし、時には教育委員会とか、教育長だけでなく、私たちの考えや状況も聞いていただく機会をつくっていただければありがたいなというふうに思っております。

2点目は、新たな交通体系の構築についてでございますけど、本町では今年度地域公共交通法に基づいた町の協議会を設置をしました。そんな中で、公共交通の見直しを進めております。本町では観光路線と生活路線という大きく分けて2つの形になっておまして、その中でも谷が5つ分かれておまして、またそこから枝も分かれとるという、非常に地域性による課題も大きなものがあって、これまで進めてこられなかったということがあります。来年度からできることから試験運行を含めて実施をしていきたいというふうに思っております。県の方からも、協議会の委員として御参加をさせていただいておりますけど、協議会の中だけではなくて、実現に至るまで、またその後も御支援をさせていただいて、アドバイスをいただければというふうに思います。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、湯梨浜町長様お願いいたします。

### (宮脇湯梨浜町長)

失礼します。まず、最初にちょっとこれは要望なんかじゃないんですけども、思いとして、今、ふと思いついたことがありますので、子育ての関係で、「お家で子育てサポート事業」というのを県に始めていただきまして、ほとんどの町村で実施しておられるということでございまして、中身を見ますと、対象を3歳までとか、4歳までとか、そういう年齢が違う形で、今、町村が取り組んでいるということですけども、3歳以上の保育料が無料化されたということで、「お家で子育てサポート事業」を湯梨浜町は1歳6ヶ月までやっているんですが、3歳未満児まで上げるということが、1つは全面的に無料化になると思っているという人たちに対する考え方からすれば対策としてあるかなと思っております。そのときに思いましたのが、そもそもこの制度を考えたときに、1つは2歳未満児に保育士さんがたくさんいるから、保育士確保困難がある、そっちの方の解消にもつながるのではないかなという思いがあったもんですから、今、いろんな形で、町村が実施しておられますから、それを分析して、そうすれば県に今以上のお金を出していただいたりしなくても、対象年齢を延ばすことができるんじゃないかなということを感じました。ちょっとこれは唐突に思ったことですが。

英語教育につきましては、実は湯梨浜町、今日、聞いてみましたら、ALTが2人おりまして、国際交流員とそれから国際交流協会あたりの活動でやっております。ALTは2人というのは、実は中学校をこの4月から統合したんですが、2つあったのが1つになったということで、2人そのまま置いているということです。教育委員会はなかなかすばらしいなあ、知らなんだとか言って、笑って話しましたが、それで、中学校と小さい泊小学校で1人、それから羽合小と東郷小で1人という格好で2人が指導をしているということで、国際交流員の方はちょうど今はハワイの人が来ていますんで、英語の教育ということで、これは一般向けの方で、中央公民館事業としてやっております。それで、今、小学生の高学年で29名、一般の大人が25名みたいな形で受けているということです。あとは交流協会が食べ物や文化を紹介する海外から来られた方の会をやったりしております、そういうことで触れることができるということで、あとは中学生の相互交流でホームステイで1週間の行き来するというような形で取り組んでおります。引き続き、小さい小学校あたりのことについて、地域でということも考えてまいりたいなと思っております。

それからふるさとキャリア教育というのは、実は昨年、町教育委員会のほうに随分話をしまして、小学校の3、4年生分の本として作ってくれました。この中身を見ましたら、文化なんかも多少あるんですが、公共施設ですとか、そういう本、やっぱり3、4年生が学ぶことを頭に置きながら作ってありますから、私たちの思いとちょっと違うわけですね。そういう観点からしますと、やっぱり別立ての組織でそういうことを検討する場が必要ではないかなというふうに思って、先ほどの教育長のお話に賛同いたすものでございます。

それから、ドライバーの育成のことですけども、スクールバスなんかでも湯梨浜町でも大変困っております、バス会社の社長さんにお伺いしますと、給料を上げても、要するに人が来てくれないと。明らかに運転手さんの不足ということで、スクールバスも今年度限りでもう手を引くというような話もございまして、それで、それをほかに出すとなると、随分金額がかさんでくるということで、昔やっていたように自主事業で、緑にならない形で町が直営でやるというような方法を本気で模索しなければというふうにも思っているところでございまして、この資格を取得するための支援というのも、本当にありがたいなと思って、やっていただければというふうに感じているところでございます。そのようなことを思っております。

(司会) ありがとうございます。続きまして、琴浦町長様お願いいたします。

**(小松琴浦町長)**

琴浦町です。まず一番初めにありました、私は教育というのは本当に大事なことだと思っておりますけれども、町村がやれることというのは、教育環境を整備するということで、今日の資料の中にもありますけれども、ICTということがありました。来年には今日の話である小学校で英語、道徳、プログラミングということが始まりますけれども、タブレットを導入することを今、進めているんですけれども、ちょっとそこで不安を感じるのは、これは手段であって、教えるために使う物であり、先生がこれを使いこなせるものかどうかということに少し不安を感じております。

使い方、どうするんですかと校長先生に聞けば、ICT支援員が来て教えてくれますとおっしゃるんですが、それは機械の使い方を教えるだけのことであって、教育の専門家である専門の先生がそれをいかに使って学力向上につなげていくかということが第一に考えなくてはいけないことだと思いますけれども、その不安を感じております。そして学力ということと言ったときに、学力だけが全てではないとは思っておりますけれども、最近の教育の方向としては自らが考えるということを進めているとお聞きするんですけれども、計画訪問という形で学校を訪ねて行くと、やっぱり今までどおりの一斉授業という形が見えてしまって、これは短時間で見ているところなんで、そうではないと思うんですけれども、子どもたちが自ら考える力を引き出す、その教育の方法ってどうするんだと、誰が教えるのか、あるいは今教えている先生がどういうふうに学ぶのか、多忙ということもあるんですけれども、ぜひ、そのところを何かいい手がないのかな、あるいはちょっと不安を感じているところでもあります。

公共交通については、琴浦町、昨年バス路線のバス事業者の撤退をするということがあって、少しのんびり構えていたところがあるんですけれども、幸い町内の業者さんが受けてくださったんですが、これも3年間の契約です。考えてみると、鳥取県というか、地方でこれだけの自動車の普及があって、公共交通と言ってバス、タクシー、もう限界に来たんじゃないかというふうに、今、感じているところです。人がいないとか、それから特別交付税の措置での財源的な話も含めて、新たなやり方を考えていかなくちゃいけないと思っているところ、幸い県の方から声をかけていただきまして、今、トヨタモビリティ基金を使っての調査事業を入れていただいております。日南町と琴浦町が、今、どういう要望があるのかということから始まっているんですけれども、私はその行先は、今日の資料の中にもありますけれども、観光の中であるんですけれども、MaaS（マース）ということで自家用車、先ほど若桜町さんの方からもありましたけれども、もうバスとか、タクシーとか、そういうものの限界を何とか考えるのは、この2、3年の内に考えないと、もう本当に人がいない、車がないということになり、高齢社会の中で免許返納があればもう避けて通れない。これはどこの町村も同じ問題を抱えていらっしゃると思いますので、何がというところで、今、答えができませんけれども、ぜひそういう所を一緒になって考えていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(司会) ありがとうございます。続きまして、北栄町長様お願いいたします。

**(松本北栄町長)**

はい。子どもの支援につきましては、大変お世話になっておりましたありがとうございます。おかげさんで待機もなくて、今のところ順調に進んでいるわけではありますが、ただ1つ先ほどありましたように、やはりその保育士の確保というのは、これが大変難しいなど、こう思っております。途中で入所される場合、なかなかその保育士が確保できないということでございまして、

これが大変な大きな問題になっているところでもあります。これを1つ確保できるように、県の方も御努力いただければと思います。

それから英語教育でございますが、北栄町の方も、この学校の英語教育を見越しまして、7、8年前から既に小学校の方にも、臨時の職員であります。英語のできる職員を採用いたしまして、それぞれの小学校でやっておりますし、それからALTはそれぞれに学校にいます。幼稚園、子ども園ですね、そちらの方にも週に1回ずつに行っているというような状況であります。また、ALT以外にもALTを以前しておられたアメリカの方を国際交流員ということで雇用しまして、ずっと行っていただいておりますが、やっぱりその子どもの小さい時から英語を学ぶと大変発音が良くなるというようなことを言っておられました。やっぱり小さい時から、こういうグローバルの中で英語を学ぶということになればそういうことをすべきだなということを思っているところでもあります。そして、英検を受ける生徒に町独自で助成をしております。英語教育の方にも十分に力を入れているところでもありますし、また、ICTの支援員も、これも町単独で職員として雇って、このIT世界に対応するような取組もしているところであります。なかなか、先生が全てをできるということではありませんので、そういうことをしながら、これからの社会に適応できるようにしているところでもあります。

ふるさとキャリア教育については、今、鳥取中央育英高校と地域探究の時間ということでやっております。今年で5年目ぐらいになると思いますが、大変効果も出てきておまして、やはり今まで地域のことを知らなかった、いい所がわからなかったということもあるわけですが、そうやって地域のことを勉強することによって誇りができたとか、私もここに住んで地域のために頑張りたいとか、こういう方も少しずつ出てきているという状況で、いい傾向にあるなと思っておりますし、また、JCさんの方も北栄ツアーということでしていただいております。これも高校生が主体となって勉強をしてガイドとなり、地域の方、それから中学生や小学生を案内していくというような形でいい方向に進んでいるのではないかなと思っております。

それから、交通体系については、今のタクシー利用助成事業ということをしてしております。山間部ではないわけですが、やっぱり集落が点在している所もありまして、なかなかそういう免許のない人、あるいは車の運転ができない人もあるわけがありますので、こういうタクシーを利用して買い物に行ったり、病院に行ったりしていただくようにしているところでもあります。最初は町内だけで使っていたわけですが、なかなか病院も町内にはあまりない、それから買い物する所もないというようなことで、町外の方でも行けるようにしてございまして、大変喜んでいただいとるところであります。年間96枚のチケットを配布して、最高800円と1枚について800円ということで補助をしているわけですが、1人で行くともったいないから4人ぐらいで行かないよということで、地域の方が乗り合わせて行くようなこともしているところであります。この助成の方もお願いできたらいいかなというようなことを思っています。

高速道路については、山陰道大変お世話になりました。事業化になって3年目になるわけですが、今、各自治会の方に説明に行っております。地元の方もなるべく早くできるようにということで協力をしていこうというようなことをお話をいただいているところでもありますので、ぜひ県道の方も早期に完成できるようにお願いしたいと思います。以上で終わります。

(司会) ありがとうございます。続きまして、西部の方で、米子市長様お願いいたします。

(伊木米子市長)

はい。米子市長の伊木でございます。私の方から端的に3点ほど申し上げたいと思います。

まず、教育の中で英語教育についてのお話がございました。来年度からはこれが本格化すると

ということで、米子市の教育委員会の方でも、特に小学校の英語についてはいろいろと試行錯誤しながら今、努力をしているとございます。そこで1つ、1点気になった点と言いますのは、この資料1-2を読ませていただく限りにおいては、小学校において特に重視するものとしてコミュニケーションを図れるようにという記述があると思います。それで、一方で中高になりますと、やはりテスト等を念頭に文法や読み書き、それは一つ一つの段階を追っていくということで理解はしておりますけれども、1つ御留意いただきたい点は、コミュニケーションを重視する場合は、言ってみれば英語はbrokenであっても文法が間違っていてもしっかりと英語を通じて、意思疎通をするというところに喜びと目標を見出すということだと思います。それは中高になってから間違った英語を使っちゃいけないというような、言ってみればテストを中心とする教育と矛盾する点がありやしないかということで、若干現場の方にはまだ十分な教育方針というのが伝わってないような感がございます。ここはよく整理をして、ぜひとも県のリーダーシップのもと、この英語教育というものが充実するようにお願いをしたいと思います。

2点目は公共交通についてでありますけれども、米子市の場合、市部の場合やはりいかに使ってもらって1つでも黒字路線を増やしていけるかということが大きな勝負になっております。そのことで町村部とも連携して、と言いますのは、路線の多くは始点をあるいは終点を町村部から来て、米子市内に通ずるという線もたくさんありますので、米子だけの問題ではないと思っておりますが、重要なことは1つでも多くの黒字路線をつくって公共交通の体系をでき得る限り維持するというのを、我々は目標に置いております。その際に、キャンペーンを張るとかいろいろ手段はあると思っておりますけれども、ぜひともキャッシュレス決済というものをバスあるいは鉄道との連携の中で、検討していただきたいというふうに思っております。我々、米子市でも検討するんですけども、やはり一長一短どれもあまして、技術として優れているのは間違いなく交通系のICカードであります。ICOCAとか、PASMOとかSuica、あの類ですけれども、これはGPS機能もついておりまして、距離に応じて精算をする場合にはもう極めて優れているという点。それから瞬時に決済ができて、且つ大量に捌けるという点では、大量輸送手段である公共交通には非常に適しているという、その反面、導入コストが高いという欠点もございます。一方でQRコードにつきましては、導入コストが安いという利点がある反面、今、乱立状態であるのと、距離に応じて決済をする仕組みというのが十分に確立していないという点がありまして、これ、どちらも一長一短というのが今の状況であります。この辺につきましては、また、研究を進めていただきながらぜひともできるだけ近い将来、これは導入するんだということでお互い目標を持ちながら進めていけたらなというふうに思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

3点目は新幹線についてでありますけれども、これは鳥取県さんも含めてこの皆さんと一緒に、この導入というものを進めているということで、取りあえず、まず、始まったところではありますけれども、やはりまだまだ本当につくのというような疑問を持つ方もたくさんおられまし、今、長崎ルートの方では地元負担の問題巡っていろいろと課題も起きてっていると聞いております。それで、我々、やはり便益以上の負担ができるわけではありませんし、かつ、並行在来線というものも重要な我々の住民にとっての移動手段であることから、やはりそのあたりも含めてこれまでの枠組みに捉われない国の政策を求めているところとございます。その点を多くの住民の皆様にご理解していただき、そして日本全国各地でこの公共交通、高速鉄道等のインフラが、整備が遅れた地域の後進性というのをよく把握していただき、理解していただき、この取組を一緒に進めさせていただければというふうに思ひます。以上とございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、境港市様お願ひいたします。

**(清水境港副市長)**

はい。資料2-2の14ページですけども、5番のところがございますように、8月7日に平井知事を先頭に伊木米子市長と中村市長が米子境港間の高速道路の事業化について国に要望をされました。重要港湾境港、特定第3種漁港、境漁港を有する境港市ですが、現在竹内南地区に貨客船ターミナル、境漁港に高度衛生管理型漁港の整備を進めていただいております。この機能を十分に発揮し、物流を活性化するには現在の高速道路からインターチェンジまでの所要時間が30分を超える現況ではだめだと考えておりますので、境港市も一生懸命頑張っていきたいと思っております。また、クルーズ船が多く寄港しますけれども、乗客の方の多くが島根県側に行かれる現況を鳥取県側に向かわせるにはやはりこの高速道路の整備が必要だと考えております。それには鳥取県内全域、これを商工会議所なども含めた全体で盛り上げていくということが必要になってくるのかと思っております。境港市も一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

(司会) ありがとうございます。続きまして、日吉津村長様お願いいたします。

**(中田日吉津村長)**

はい。日吉津村でございます。初めて参加させていただきましてちょっと緊張しておりますけれども、まず、子育ての方に関連をいたしまして、日吉津村で今、保育所の建て替えということを考えております。それで、保育所とあとは小学生、児童館を合わせて複合化して建て替えるような事業計画を進めかけているところでございます。あと、日吉津村、標高がない所でございますので、冒頭知事の方から水害の話なんかありましたけれども、やはり立面的、2階建以上に、2階建にして垂直避難が、村民の皆さんが垂直避難していただけるようなそういった緊急避難的な機能も持たせてつくっていききたいなというふうに考えているところでございます。なかなか探してもいい財源がないというところもありまして、そういったのがいいものがあれば教えていただきたいなと思っておりますし、また、小さい自治体でございまして、建築の専門の職員もちょっといないものですから、なかなかこのあたりでも、県さんの方にもいろいろアドバイスとか、御協力をいただけるとありがたいなと。特色のあるものにしていきたいと思っておりますのでアドバイスをいただければというふうに思っております。

もう1点、交通体系の関係につきまして、今、境港副市長の方からお話がありました。米子境港の高規格道路の関係、日吉津村の方もあり方検討会に参加をさせていただいているところでございますけれども、やはり、今、先ほど申し上げられましたように、やはり県全体、あるいは西部領域のことを考えると、非常に重要な道路になってくるなというふうに考えているところでございます。ぜひ、沿線とか、周辺の自治体、あるいは産業ですとか、商業の方にも利益があるような事業化になるよう、県の方にも調整をしっかりといただければというふうにお願いをしたいと思います。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、大山町長様お願いいたします。

**(竹口大山町長)**

失礼します。大山町です。大山町では本当に子育て支援や地域交通体系の整備などで県の方に大変にお世話になっているところなんです。大変お世話になっているところではありますけれども、もうちょっとお世話になりたいというふうに思っていて、3点お願いをしたいと思います。

まず1点目が国の保育料の無償化に伴う市町村の負担等の変わる部分についての支援についてお願いをしたいというふうに思っています。今、大山町でも中山間地域市町村保育料無償化等モデル



化事業を活用しまして、保育料の無償化などにも取り組んでいるところです。これが国の無償化の施策が始まることになると、今まで県から入ってきていた補助金が今度は国から少し額が増えて入ってくるというような形になりますが、当初、国も保育料無償化ということで全部無償化してくれるんだろうなというふうに思っていたのですが、ニュースなんかでもちらほら出ていますけれども、副食費の部分は見ないよというような話がありました。いや、それはないだろうというふうに思いました。飲み放題を居酒屋でつけたら、ちょっと地酒は自分でお金を払ってくださいよというようなやり方だな、国は、というふうには思ったんですけども、そういう国の制度なのでなるべく副食費も今後は出してくださいということを県からも要望してほしいというふうに思いますが、県の方も国の無償化によって、例えば、今まで保育料の補助制度等をやっていた部分の財源が浮く部分というのがあるかと思しますので、そういったものを活用していただいて、今まで無償化等に取り組んでいた町村の負担の部分の部分を少しでも軽減するような形で考えていただければというふうに思っております。

それから2つ目ですけれども、公共交通に関してタクシー助成です。このたび県の方で地域交通体系再編支援補助金ということで、新たなタクシー助成等のニーズ等をつかむために1年に限って新たにタクシー助成をするところに補助をするというような制度をされています。大山町では数年前からタクシー助成というのをやっております、今、交通空白地帯はデマンドバス等によりましてないわけですけれども、やはりタクシーとデマンドバスの中間のような料金負担で、自由度も高いということで、非常にニーズが多くございます。しかしながら、全てを補助するわけにはいきませんので、ある程度利用制限を持たせながら予算の範囲内で収まるようにやっています。これを県の方で一般施策化といいますか、継続的にそういうタクシー助成をやっている市町村に対しての補助等していただければ、もう少し利用制限を緩和して、タクシー助成を使える人がふえる、あるいは利用制限がなくなる、そういうような使いやすい施策に変わっていくものというふうに考えておりますので、そういったところをぜひ御検討いただきたいと思っております。

3点目が、先端技術に関してです。今、国の先端技術の関係で近未来技術社会実装事業に県の方と一緒に取組を進めようというところで進んできています。簡単にいいますと、貨客混載で何かできないかというところで取り組んでいるところであります。ただ、人を運ぶ物に荷物を載せて、それで採算を合わせていこうとか、ドライバーの人手不足を解消しようというような狙いは短期的にはあるわけですけれども、長期的に考えますと、やはり先ほど琴浦の小松町長が言われたように、MaaS（マース）、モビリティ・アズ・ア・サービスというような観点で、今まで車は移動手段、それで個人が所有するというような時代でしたけれども、今後は道路のインフラの上を自動で走るインフラのようなイメージで物でも人でも何でも乗って、それがぐるぐる地域を巡回して人の足になったり、物流の基礎になったり、そういうような時代になると思います。こういったものを先駆けて取り組んでいければなというふうに思っておりますので、県の方にも御協力いただきながら大山町を実験のフィールドとして取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

(司会) ありがとうございます。続きまして、南部町長様お願いいたします。

(陶山南部町長)

はい。南部町長の陶山でございます。日ごろ大変お世話になっております。私の方から2点お願いをしたいと思っております。

まず1点は新時代における子育て支援、人材育成、いわゆる人材育成の面で1点だけお願いしたいと思います。小学校、保育園も含めて保育園・小学校・中学校と、これ、町で一生懸命子ど

もを育てていきます。しかし、残念ながら南部町には高校がないために、米子市内の高校に通うわけです。しかし、高校で少し失敗をして中退をしたというような情報は一向に町には帰ってこないわけです。夜、寝には帰って来ていたり、もしかしたら学校にも行かずに家に引きこもっているかもしれない子どもの情報というのが、町の中にはないということが非常に残念です。もう1つ、さらにいえば、これは個人情報の問題もいろいろあるのでしょうか、大きくもう少し発展すれば高校で失敗した、大学で失敗した、就職に失敗した。そのために引きこもって10年も経てば社会復帰というのは非常に厳しくなってくると。したがって、できるだけ早い時期に手をかける、御家族も多分大変悩んでおられるでしょうし、何よりも御本人が一番大変だろうと思っています。そういう早い時期での対策というものを個人情報一歩飛び越えてやるような手立てというのを鳥取県の中でやることのできないだろうか。これから子どもたちはどんどん減っていきます。大切な人材をしっかりと地域のため、そして彼らの人生のために何かできることはないかと、このように思っているところでございます。南部町の「いくら郷」というのがございまして、実は私の近所のお子さんがお一人、そこに通って、今、支えられる側から支える側で就労しています。御家族と私の家の周りを毎日散歩していた子が仕事について働いているということに、私、本当にうれしく思いますし、ぜひそのような仕掛けを、鳥取県は再生・復活できる地域なんだというようなアピールは、これからの人口減少社会の中でとても大事なことだと思いますので、ぜひ御検討いただきたいと思っております。

もう1点公共交通については、残念ながら南部町のタクシー業界が撤退をしまして、それまで伯耆町にあった駅前のタクシーを南部町の皆さんは使っていました。ところが、これが撤退したために、米子市に電話をするんですが、町内の移動にはノーということになってしまいうんですね、うちから西伯病院までちょっと乗せてもらえないかということに伝えていただけない。それで、これからの公共交通を考える中で、今回の9月から始まります一般質問の議会の中から、タクシーをどうするのかという質問をいただいています。タクシーを有効に使えるような、米子市内のタクシーを有効に使えるような術はないのかが1点。もう1点は、先ほどから出ていますように、ウーバー・テクノロジーズであったり、クルーであったり、新たな今の技術を使った地域共助型の交通網体制をしなければ、これから先々の運転手不足であったり、タクシー自体も非常に厳しい環境があるだろうと思っています。ぜひ、全国の先を行くようなそういう施策を高齢化の進む鳥取県で、ぜひ一歩前に出ていただきたいなど、このように思っています。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、伯耆町長様お願いいたします。

#### (森安伯耆町長)

議題1、議題2についてほとんど皆さんの方から御発言あったんで、私は取り立ててございません。アイデアもこういうものっていうのはないんですけども、いろんなことをやってきた中で、さらに新しい時代にあったものをつくっていくという研究が必要だということは理解します。それで、その上で教育についても、やはり交通についても、AIとか、それからICTの進歩ですとか、そういうものを踏まえたような手段、それから方法を、県を中心に研究していただきたいというのが主な意見であります。それで、その上でちょっと関連というか、最近、平井知事がドライブレコーダーとペダル踏み間違い対策の施策化というのを会見でお話をされて、予算も準備されているというのをこの前拝見させていただきました。今までの平井知事がずっとしてこられたハイセンスというか、時代先端型の施策と比べると、もしかすると、若干泥臭いというようなところもあるのかなと思っておりますけど、私は非常に必要な対策だと思っております。県の9月補正

で施策化されるということを前提とした上で、町でも補助の嵩上げをする、そういうことを考えていきたいと思っておりますので、どうかいい施策になるように、御努力をお願いしたいと。以上です。

(司会) ありがとうございます。続きまして、日南町長様お願いいたします。

(中村日南町長)

失礼します。日南町長の中村です。私の方から3点ですけれどもお願いをしたいと思います。

まず、教育関係ですが、小学校も統合して約13年ぐらいになるというふうに思っておりますけれども、当初から保小中連携というところで進めてきたところでありまして、最近ちょっと形骸化してきているのかなというふうに私自身は思っております、中身の方の実践が少し伴ってきていない部分があるのではないのかというふうに思っておりますので、その辺をこれから総合教育会議等の中で詰めていきたいというふうに思っておりますが、1つはやはり学力をもう少し上げましょうよっていうお話をさせていただいているところでありまして、もう1点はやっぱりICTの活用を早期に備品等は整理したつもりですけれども、やっぱり利活用っていうところの中で、少し上がったりがったりという部分があるのかなというふうに思っております、先生方は一生懸命頑張っていると思っておりますけれども、とはいいいながら、やはり先生も異動というものもありますので、その辺で横の力の上下があるのかなというところはちょっと私もよくわかりませんが、その辺を少し検討していきたいなと思っております。

それで、英語についてはちょうど日南は教育という観点等を合わせてですけれども、慣れ親しむということで、4、5年前から海外派遣をしております、シアトルの方ですが、小学校5年生から中学生3年までの間で10人毎年派遣をさせていただいて、その後にシアトルの方からも、今年の場合は20人ぐらい来ていただいて交流をさせてもらっているという状況でありまして、その中、子どもさんを見ると本当に自信がついているのかなというふうに英語でしゃべっておられましたけれども、その辺をこれからちょっと高校生だとかにも広げてもいいのかなというふうに思っていますし、また一方では、保育園レベルでも遊び感覚でそういうものが取り入れることができないのかなというふうに思っております、その辺をこれから現場の方ともお話していきたいなというふうに思っております。

もう1点は子育ての関係で、資料1-4にも検討方向性の4つ項目がありますが、その最初ですが、日南町は今1つ離婚が多いというふうに思っております、離婚率が高くて晩婚化で結婚してもらっているのはそれはどちらでもいいというふうに思っておりますけれども、結構やはり現状を把握してみると男性も女性も高いんだなというふうに改めて感じているところでありまして、いろんな施策も町単独でもやってきておりますし、けれども、なかなか実践がないというか、効果が生まれてきてないのが現状かなというふうに思っております、昨年からは結婚相談所にも委託もさせていただいておりますし、今年からは仲人制とかいうのを復活したり、同窓会の支援といえましょうか、25歳から45歳までだったと思いますが、同窓会をどんどんしてくださいって、その支援をしましようということで、Uターン的なことも含めて、そういう動きをしておりますので、成果が出るかはこれからだというふうに思っております。

それと交通体系についてであります、先ほどいろいろなところからおっしゃられて、先ほど南部町はタクシーが撤退されましたという話もありますが、日南町の方もやはり1社しかない状況でありまして、その中で、今年になって、土日は休みますというような動きが出てきております、そうすると、かなり厳しいよねということで、今までタクシー利用チケットということで、本来は外出支援ということの目的でチケットを発行してきておりましたけれども、そういう状況が

生まれるのであれば、本当に根本的な見直し、全体を見直ししていかないといけない時期だろうというふうに思っております。県としても研究会の中でいろんな情報提供をしていただいている状況は理解しておりますけれども、そういったことも含めて、ここ数年間の間には、新たな体系をつくっていきたい、つくらないといけないそんな時代になったのかなというふうに思っておりますので、いろいろとまた指導、御支援等していただきたいと思っております。以上です。

(司会) ありがとうございます。続きまして、日野町長様お願いいたします。

(埜田日野町長)

はい。日野町でございます。よろしく申し上げます。私どもの方からも3点、1つは子育て支援ですけれども、私ども日野郡小児科さんがおられません、常勤の小児科医さんがおられないということで日野病院に小児科医さんを配置いたしました。そうしますと、前の年は400人未満の受診でしたけど、1,400人とか、非常にたくさん受診していただきましたし、また、子育て中の御両親からお伺いしますと、やっぱり安心感がある、米子まで出なくてもよくなったというように非常に好評です。ただ、病院経営上は非常に大変、そういった点がございますので、ぜひ、何か小児科医不在の地域、小児科医を配置するということが、なんらかの支援があると非常にありがたいなと思っております。

それとグローバル化に対応した英語教育、私ども3年前から公設の英語塾をさせていただいております。非常に評判がよくて米子までの塾に通っていたんだけど、塾の勉強がよくわかる、中学校になって英語もよくわかるようになったという評判が高い授業をさせていただいています。専門の先生、ただ、私どもが予定しておりました、毎年ところてんのように卒業生を出して、また小学生を入れていくというのが、なかなかできなくて、評判がよくてやめられる子どもさんがなくて、今、中学3年ぐらいいまでもいいよっていうことになっています。そして、その専門の先生はやはり少人数でないとなかなか英語教育は難しいということで、補完する人材とか、そういうものを何とか見つけたいと思うんですけど、非常に小さな町というか、情報発信力が少ないもので、なかなかその目処がつきません。そういった面でやっぱりそういう人材の紹介、そういったものに、県の方から御支援があると非常にありがたいなと思っております。

それから3点目は、やはり過疎中山間地、皆さん共通なんですけれども、公共交通の関係です。私どもの町、バス路線とタクシーの運行を兼ねた体系でさせていただいているんですが、町内3台しかタクシーがございません。バス路線も主だったところ。そうすると、そういう場所から離れた所で何とか、自分たち、何かそういう公共サービスがもらえないかっていうようなお話もある時に、地域共助交通というようなことを提案するんですが、その時に、ちょっと意味合いが変わるかもしれませんが、タクシーと競合するんですよね、タクシー、都会だと不特定のお客さんを集めてタクシーのビジネスが成り立つんですけども、人口の少ないところだと特定のお客さんしかおられない、そういうところで、共助交通とタクシーを併存させるにはどうしたらいいか、要は、今度、研究会があると思っておりますけれども、平面的な目的地とかいうのと、あと時間帯とかいろいろ組み合わせでちょっと検討していただいて、また、その辺を教えていただければ、非常にありがたいなと思っております。以上でございます。

(司会) ありがとうございます。続きまして、江府町長様お願いいたします。

(白石江府町長)

はい、鳥取県のトリでございます、最後でございます、江府町です。まず、7月の局地的な大

雨で被災をいたしました際に、平井知事に足を運んでいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。幸いに余り被害はなかったんですけども、これはありがたいことだというふうに思っております。2点ございます。

1点目は、実はお盆明けにタイムカプセルを開ける行事がありました。これ、旧米沢小学校、もう廃校になっております、こちらの方のそういう式典がございました。このタイムカプセルは教育研究論文でソニー教育賞というのがありまして、それを平成5年、平成6年この2カ年に優良賞、優秀賞を受賞した記念のタイムカプセルということで、25年ぶりに掘り出されました。それで、地元の人が集まって来られているいろんなお話がある中で、ある保護者の方がこんなことを言っておられました。25年前、自分の子どもがこんな話をしてくれたと、うちの担任の先生の誕生日のプレゼントをするのに、蛍を理科室を暗くして放した。こんなことは恐らく都会では考えられないことで、しかもやはり自然が豊かなこの米沢の場所だったからできたことだと思います。さらに言えば、その背景にはこのソニーの教育論文賞、教育賞をとった校長先生、この校長先生がそういう、これ米子の方なんですけども、この江府町のこの場所に来て、とても自然が豊かだということを感じられて、子どもたちにそういう教育をされたということの賜だと思います。何が言いたいかといいますと、校長先生、小学校・中学校もそうなんですけども、そういった校長先生に来ていただいて、しっかり方針を立てて、教育をしてほしいということでございます。これはぜひお願いしたいと思います。

2点目でございますが、これはやはり公共交通の話で、うちもご多分に漏れず困っております。今、町営バスとタクシーの助成をやっているんですけども、今年度になって小型のバスで集落内を走らせると非常に好評でございます。ただ、このバスが銀色のバスだったもので、ちょうどデイサービスに行くバスと同じような色をしているので、間違えて停まったりとか、拾ったりとかするようなことが起きたもので、それで、バスはちょっと変えるんですけど、それがちょっとヒントになったのは、さっき倉吉市長がお話になって、介護施設とか、病院でやっぱり市内を回っておられると思うんですけども、そういったものとの組み合わせとか、うまく何か利用できるものはお互いに利用できないだろうかというのはちょっと感じたところでございまして、そういった研究も一緒になってやっていただけるとありがたいと思います。以上でございます。

#### (加藤令和新時代創造本部長)

はい、ありがとうございます。そういたしますと、これより、知事の方から総括的なお話をお願いします。

#### (平井知事)

はい。また、教育長の方もお話があるかもしれません。また、何なりとまたおっしゃっていただけたらと思うんですが、本当に今日は建設的なお話、皆様の率直な実情のお話もいただきましたし、また、それに対するアイデアも併せていただけたわけでありまして、ぜひ、今日テーマになりました市長会・町村会でもお話になりました子育て関係、教育関係、それから交通関係ですね、ぜひ今日の議論を生かしていきたいと思います。ぜひ市町村長さんの方からもフォローアップを一緒にやっていただけるとありがたいかなというふうに思います。

子育ての方では、冒頭、深澤(鳥取)市長のお話もございましたけれども、一步前に進めていこうという主旨でのお話が大変に多かったわけでありまして。保育士の確保、これも確かに生き甲斐のことも含めて、潜在者名簿の活用だとか、そうしたアイデアもあるのかもしれないし、もちろん奨学金等、これ県の方でもさせていただいていますが、そういう基金を通じて支援措置をつくるというようなこともありましよう。いろいろとこれも工夫の余地があるだろうと思います。

それで、一歩前に進める意味では、お家でサポート事業の年齢を変えたらどうかとか、あるいは森のようちえんの、あるいはサドベリースクールも含めた活用であるとか、通学費助成ですとか、また、副食費について国に要望したり、考えてもいいのではないかとか、そんなようにいろんな御意見があり、育児休業の方で対応する、そういうような考え方のお話もありました。ぜひ、こういう中で、我々、結局、財布はそれぞれの県も市町村も1つずつでありますので、どういうのが効果的なのか、本当に必要なのかを、今、研究会が動き始めましたのでそこでも反映してもらいながら、またフィードバックをしてそういうのを市町村長さんと改めて一歩前に出たこと、どれを選択していくのか、何がいいのかっていうことを考えていければと思いますのでよろしくお願ひ申し上げます。そういう中、関連して小児科医のお話がありましたけれども、これもまた実状を、全市町村のお話もありましようから、子育ての1つの要になることでありますので、研究させていただきたいと思ひますし、晩婚化が進むということで同窓会をやれば結婚するんだっていうの、初めて知りましたが、私、男子校だったもんで同窓会やっても一向に結婚できないということでありましたが、そんなようないろんなことも含めて、これもまた子育てと関連して対応すべきことだと思ひます。こういうことなど今、「新時代子育て支援のあり方検討会」の中で検討させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひ申し上げます。

教育関係は基本的に教育長の方からお話もあろうかと思ひますが、例えば、ふるさと教育とか、ICTの技術者のことなど、どちらかというところ知事部局側もかみながら進めていきたいというのがあります。ぜひ今の引きこもりの「いくら郷」のお話もありましたが、情報共有も図りながら教育だけでなく、はみ出してくる部分もいっぱいあると思ひますので、その辺は共にさせていただきたいと思ひます。大分、教育委員会制度も変わって、首長さんがこれほど教育のことを語られるっていうのは珍しい会議になったかなと思ひます。それで、多分できるんですね、それで、私は前から思っているんですけど、市町村長さんと教育についてざっくばらんなお話をして、我々がある意味スクラムを組んで、市町村教委、県教委と協調させた方が随分早道なことも多いんだと思ひますので、こういう機会もこれから考えていければというふうに思ひます。

それから交通についてお話がございました。本当に深刻な状況が随分市町村に広がっていることがよくわかるわけでありまして、お互いの話を聞いていて、なるほどそういうやり方もあるのかというのも見えたところもあろうかと思ひます。これ、研究会つくって、補助制度の話に終始せず、じゃあ、どうやってそれぞれの地域で解決できるのかというところにフィードバックできるような仕組みをぜひ考えてみたいと思ひます。研究会どうせ有識者を集めてということと、市町村代表者ということになっちゃうんだと思うんですが、ただ、そこで調整をしながら、先ほどおっしゃったように、タクシーを活用しようと思うと今の事業者の方との調整だとか、いろいろと厄介なこともありますし、レンタカーにしちゃえば自治会はしていいんじゃないかというお話もこれも規制の問題等もあるのかもしれないし、どっちかというところ研究会的に検討すべきようなこと、関係の業界も入っていただいてやるべきこともあれば、先ほどお話もございましたけれども、実際実践の場で協議会をつくって、それで支援措置を考えるという、そのフィードバックの中でやっていかなきゃいけないこともあるのだと思ひますので、ぜひ、多分、今日の総意だと思ひますが、市町村の皆さんと一緒に鳥取県型の地域交通のあり方というのをつくっていただければと思ひます。多分2つのパターンがあるのかなと思ひて伺っていました。1つは伊木(米子)市長がおっしゃったような都市部でのことでありますが、黒字化を何とか維持させるように利用促進を図るといふこの方策でやるべきエリアや路線のこともあるんだと思うんです。それで、人口のある程度のところは絡めとりながら、どうしてもできないところでタクシーだとか、Uber(ウーバー)だとか、あるいはMaaS(マース)を活用するとか、そうしたことを考えていかなければいけないのかなと思ひます。タクシーも撤退したり、土日は休むという所が県内にも広がって

いるということでありまして、町営のスクールバスなども難しい町も出てきているということでもありますし、待ったなしだと思います。ぜひ、今年度、皆様と一緒に何かモデルケースのようなことを考えながら出口を見つけて、それで、補助制度も見直しながら来年度から適用して行って、またそれをうまくいく所やいかない所を市町村ごとに当てはめていただいて、さらに前進させていくというような形で進めていければと思います。病院や福祉施設のバスのお話もありました。群馬県などもそういう実験事業を総務省かなんかの助成も入れながら始めた所もありまして、考えて見るといろんな車が走り回っているわけでありまして、その辺も取り込んでいくのも1つの手かなと。それで、そうした実験事業も含めて、ぜひ地域交通のモデルを鳥取から拓いていければと思います。また、合わせてドライブレコーダーや交通安全のお話もありました。9月補正の中でさせていただきたいと思います。呼び水的な助成になろうかと思いますが、反響も見て、今日も森安(伯耆)町長のお話もありましたが、現場のお声も聞いてその補助のあり方を検討していきたいと思います。

交通の大動脈づくりについては、境港、米子の道路につきまして、本日関係されます中田(日吉津)村長、それから清水(境港)副市長、伊木(米子)市長それぞれのお立場の御意見もあったかなと思います。今、中田(日吉津)村長の方からもお話がありましたけれども、いろいろと波及効果があるような絵柄、地元の産業、商業施設とかそれから工場とか、そうしたところが具体的に波及効果があって、地元としても利益が上がるようなそういうことを考えなければいけないと思いますし、また市街化調整区域なども考えながらどうところが市民生活への影響を食い止めることができるのかということもありません。その辺を次のステップとして、今日、それぞれのお話もありましたので前に進めるきっかけになったなと感謝をいたしております。

併せて岩美道路につきましては、ぜひ、これ、できるだけ早くその延長を進めて、今、宅地化の効果もあるということでありましたので進めていければと思いますし、松本(北栄)町長の方では北条道路のお話もございました。これもいろんな地権者の方と調整をして、できるだけ早く進めていければと思います。新幹線については深澤(鳥取)市長、それから伊木(米子)市長からお話もございました。これも大きな課題でありまして、多分私たちの任期中に片付くことではないので、そこは多少我々も一呼吸おきながら話してもいいんだろうとは思いますが、確かに地元負担どうするかとか、じゃあ、具体的に本当にくる可能性はあるだとか、そういうことも含めて住民の皆さんに我々も説明しなきゃいけないものでありますから、また、作戦会議をさせていただきたいと思います。じゃあ、教育長の方からお願いします。

#### (山本教育長)

それでは人材育成につきまして補足の説明をさせていただきたいと思います。本当に今日多くの首長さんからこの教育に関する課題につきまして、いろいろそれぞれの取組でありますとか、個別の要望、あるいは御指摘、御提言等いただきましたことに心より感謝を申し上げたいというふうに思います。いずれもしっかりと御発言を踏まえて対応なり検討をさせていただきたいということをお約束させていただきたいと思いますが、若干全体に関わるような事について、2、3御説明を申し上げたいと思います。英語教育については、それぞれ様々な取組を行っていただいているわけですが、松浦(三朝)町長様、そして伊木(米子)市長様からもお話ありました。このたびの全国の学力学習状況調査の英語の結果を若干こう知事とも相談させていただいたんですけど、やはり小さいころからのカリキュラムを鳥取県としてしっかりと組み立てて進めていく必要があるのではないかというふうに思っております。三朝町の方では先進的に既につくられているということですので、そうしたものも参考にさせていただきながら、ぜひ鳥取県としてのコミュニケーション力をつけるということと、それから、学力を保障していくということ、

その両立がしっかりと図れるようなそうした取組につなげていけるような整備をぜひ行っていき  
たいというふうに思っております。

また、それに関連して矢部(若桜)町長からもICTを使った英語教育というようなお話もあり  
ましたし、ICTを活用した学力向上について、そうした利活用を教員が十分に図れる状況にな  
っていないのではないかとといった御指摘がございました。これ、鶏卵のような状況もありまして、  
ICT機器が入っていない所に幾ら研修をしても、それがこう響いて入っていかないというような  
こともあるわけですが、導入されている所につきましては、もう個別に教育センターの  
方が出掛けて行って研修をするような、そうしたシステムをつくっております。個々の学校にも  
出掛けますし、町村まとめてということであれば、そうした対応もさせていただいておりますの  
で、また御相談をいただければというふうに思いますし、また、学力向上全般についていわゆる  
以前はアクティブラーニングと言っていましたが、そうしたことについての授業の進め方などの  
研修も、これ、小松(琴浦)町長が行かれたときは一斉授業のままだったということですが、全部  
こうアクティブラーニングにする必要はないという言い方をしています。一斉に授業でこう知識  
を注入するという、そうした授業も中にはあってもよいということだろうというふうに思います  
が、その1時間の授業の中で一斉に授業をする場面、話し合いをする場面、そうしたことを織り  
交ぜながら考えさせる授業というのを組み立てていけるような、そんな研修をしっかりと取り組ん  
でまいりたいというふうに思っております。

ふるさとキャリア教育につきましても様々御意見をいただきました。寺谷(智頭)町長からお話  
がありましたが、宇宙に行くような話だけではなくて、やっぱり地にしっかりと足をつけた教育、  
そうした人間教育の部分も必要ではないかなというふうに思っております。これ、国の方では学  
習指導要領ということを決めて、ある程度一定のレベルの教育がなされるような取り決めをして  
おりますが、かなり柔軟に対応できる部分がございます。例えば、教材をその地域に応じた教材  
にするといったことでありますとか、総合的な学習の時間ということで、することが決められて  
いるというものでもなく、その地域に応じた教育ができるような、そんな学習の時間もあります  
ので、そうしたものを活用しながら、ふるさとキャリア教育にしっかりと取り組んでまいりたい  
というふうに思っております。

人材育成に関しまして人事の配置でありますとか、いろいろございました。そうしたものの個別  
にいろいろお話を伺いながら取り組んでまいりたいというふうに思います。陶山(南部)町長の方  
から高校を中退したときのデータが町の方に伝わっていないというお話がありました。これは以前  
にも御指摘をいただいて、その後すぐ高校の方には出身の中学校には中退した場合には情報をこ  
うフィードバックするようお願いをして、そうしたシステムをつくっているつもりで私はおり  
ますので、再度それは徹底を図らせていただきたいというふうに思います。子どもたちは、高校  
にいる間は県の方でその人材育成を図っていくわけですが、市町村としっかりと連携をして取り  
組んでいく必要があるということを従来から考えておりまして、子どもたちはずっとその市町村  
に籍をおきながら、たまたま高校では県が守備範囲となるわけですが、住まいはそれぞれの  
市町村であるわけですから、そうしたところ、情報もしっかりと共有しながら取り組んでまいり  
たいというふうに思っております。

最後に中村(日南)町長の方から学力向上について、総合教育会議できちんと議論したいという  
ふうにおっしゃっていただきました。ぜひそれぞれの市町村で、それぞれの市町村あるいは県の  
データ等を基に、しっかりとそれぞれの市町村の学力向上を図っていただければというふうに思  
います。しっかりと県の方でもフォローアップをさせていただきたいというふうに思います。学  
力向上して悪く思う県民の方はいらっしやらないと思いますので、ぜひ一緒になって頑張らせて  
いただきたいと思っております。本当にありがとうございました。



## 5 閉会

(司会 加藤令和新時代創造本部長)

はい、どうもありがとうございました。そういたしますと、最後に宮脇町村会長様、締め御挨拶の方よろしく願いいたします。

(宮脇町村会長)

新米の会長で未熟ですが、よろしくお願ひします。本日は誠にありがとうございました。今日は令和最初の行政懇談会ということで、議題を絞って全部の市町村長さんからお話、現在抱えている課題とか、意見とか、あるいは要望とかを交えながら充実した会になったというふうに思っております、お礼を申し上げます。

これからも平井県政のもとで一歩進んだ、いろんな分野で一歩進んだ鳥取県づくりを目指して住民に幸せをもたらしたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日はありがとうございました。

(司会)

それでは、以上をもちまして令和元年度第1回県市町村行政懇談会を閉じさせていただきます。どうも皆様お疲れさまでございました。